

意外と身近に潜んでいる石綿（アスベスト）!!

— どういう所に混入しているか気になりませんか? —

石綿は、耐熱性、耐火性、耐薬品性、電気絶縁性などに優れており、平成 17 年に全面使用禁止になるまで建築材料のあらゆる部分に使用されてきました。中には露出している建築材料に石綿が使われている場合もあり、大気の汚染、さらには人々への健康被害の要因となります。

石綿飛散の要因は・・・

- ・ 石綿含有建築材料の損傷、劣化
- ・ 建物の解体や改修工事
- ・ 地震による自然災害 など



近年、地震によって石綿が使われている可能性のある古い建物の崩壊、または配管や天井等から、石綿が大気に飛散し、近隣住民の健康影響や作業室内の環境汚染につながったという事例が報告されています。地震と石綿との関係例は以下の通りです。

- ・ 1995 年 阪神・淡路大震災、2004 年 新潟県中越沖地震
→地震発生から長期にわたり、高濃度の石綿が大気中に存在していた報告有り
- ・ 2011 年 東日本大震災
→上記の事例に加え、石綿含有の建築材料を封じ込め・囲い込みした箇所に関しても、亀裂や崩落により、石綿が剥離・飛散



特にエレベーターシャフト内で石綿含有の建築材料がある場合、エレベーターの稼動による風圧で拡散し、高濃度の石綿含有空気が建物内を循環している可能性有り

○ 石綿はどんな建築材料に使われているの？

名称	飛散性	使用部分
吹付け材	高 ↑ ↓ 低	鉄骨の梁、柱等、天井、エレベーターシャフト内 など
断熱材、保温材		屋根、ボイラーダクト配管、鉄骨柱、煙突、配管接合部 など
成形板	低	天井、床、外壁、軒天 など

建物の設計図書等から石綿使用の有無を確認することができますので、今回の震災を機会に一度、建物の点検をしてみてもいかがでしょうか？

当社は建築材料及び空気中の石綿分析の迅速な対応（最短 3 営業日で速報）が可能です。
 ご不明な点等ございましたら、当社 環境分析部 加藤（吉）、守屋（内線：346、378）
 （フリーダイヤル：0120-01-2590）までお気軽にお問い合わせください。

